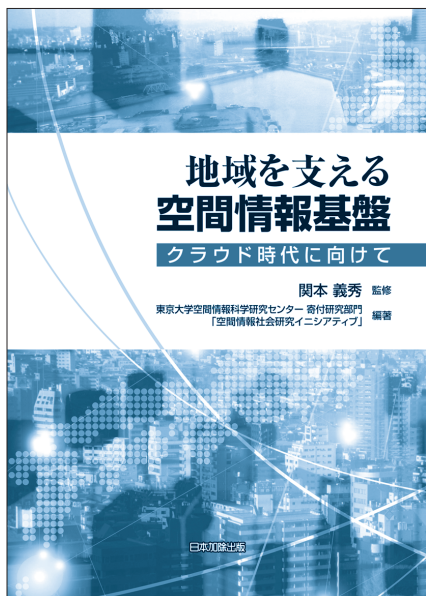


空間情報基盤は身近なもの。人は情報でつながっている。



地域を支える 空間情報基盤

クラウド時代に向けて

関本義秀 監修

東京大学空間情報科学研究センター寄付研究部門
「空間情報社会研究イニシアティブ」

編著

B5判 264頁(予定) 定価3,675円(本体3,500円)

ISBN978-4-8178-3924-4 2011年6月刊

商品番号：40428

略号：クラウド

空間情報とは、現実の空間に存在する物の情報。

基盤とは、「道路」や「水」のように皆で使う生活の土台。

それぞれの地域で、必要なものとして蓄積してきた空間情報を、
クラウド時代の社会インフラの一つとして維持管理するには？

東京大学空間情報科学研究センター寄付研究部門「空間情報社会研究イニシアティブ」の
3年間の活動の中で、自治体や地域における空間情報の相互利用や管理の共同化について、
わかりやすくまとめました。

また、東日本大震災直後に立ち上げた「震災情報マップ」の経緯などを緊急収録しています。
情報登録、情報技術は、災害時に最も必要なスピード感・透明性を提供できるものです。
東日本大震災からの復興を願う、空間情報分野の方々の座談会の模様も緊急収録しました。

目次

I部 行政からの視点

- 1章 空間情報基盤の開始を支えたプロジェクト
- 2章 統合型GISの次の模索
- 3章 共同化ガイドライン
- 4章 地方自治体での新しい試みと苦勞
- 5章 外部への情報発信の実態
- 6章 最近の自治体の関心事項
- 7章 そもそも外国はどうか？

II部 民間企業からの視点

- 8章 測っても早い
- 9章 民間事業者が行政の情報を簡単に利用できるのか？
- 10章 道路の情報はどうなっているのか
- 11章 森林情報の流通に向けて
- 12章 観光情報による地域活性化
- 13章 地域における人の流れの把握

- 14章 電子自治体の中に空間情報を位置づける
～地域情報プラットフォームにおけるGIS
- 15章 民間コンテンツ流通に向けて

III部 座談会

- (1) 測量業界最前線でビジネスモデルを切り拓く
- (2) 建設コンサルタント業界の情報ビジネス羅針盤
- (3) 部門運営の舞台裏を語る

IV部 東日本大震災と空間情報

- 特別寄稿
・自分たちができること ―震災インフォ sinsai.info―
・災害と情報
- 座談会 東日本大震災 空間情報が果たした役割と復興へ
向けて果たすべき役割